



マドリードの闘牛場で華々しく戦うことを夢見る仲間の牛たちとは裏腹に、フェルナンドは一人静かに花のにおいをかいしているのが好きなおとなしい牛でした。ひょんなことから闘牛場に連れていかれますが、そこでもフェルナンドは自分を見失わず、見物の女の人が髪につけた花の匂いをかいで静かに座り続けるのでした。

1954年に出版された『はなのすきなうし』という絵本です。「らしさ」とは何かを問い合わせた本ですが、私は子どもの頃、深いことは考えず、単純に「面白いお話だなあ」と思いながら読んでいました。12月に人権学習を進めながら、ふと、このお話を思い出しました。

男の子らしく？ 女の子らしく？ いや、自分らしく

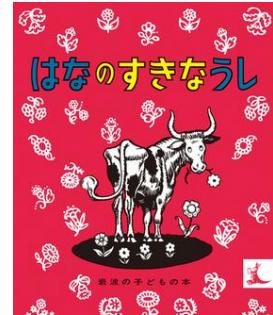
12月1日のブログでは、3年生の人権学習を取り上げました。授業の中で子どもから「お母さんがスカートは男の人も着るよ、と言っていた。」「お父さんも料理の手伝いをしている。」という発表がありました。子どもたちが接している日常の環境が、子どもたちの人権感覚を育てているのだと感じました。

17日の人権集会では、LGBTを取り上げたアニメ動画を視聴しました。男の子たちとヒーローごっこをするより、お裁縫やお花摘み、人形遊びをするのが好きなオオカミくんが登場するお話です。

動画視聴後、子どもたちから「男とか女とか関係なく、自分なりに好きなことをすればいい。」「人が『男らしさ』とか『女らしさ』とか決めつけたらだめ。」という声が上がりました。

人権集会後、子どもたちが書いた感想には、次のようなものがありました。

- ・男の子だから男の子のあそびをしないといけないというきまりはないと思います。自分のことは自分で決めて人生は自分でいいと思います。男の子でも自分は自分で。(2年児童)
- ・オオカミくんのような人が身の回りにいるかもしれないから、話を聞いて、その人が本音を出しやすい環境をつくってあげたい。その人が「ここにいたい。」と思うように、何でも話せて、遠慮することのないように悩みを聞いてあげたい。笑い合えるようにしたい。(6年児童)



【マロ・リフ作、ルート・ローツ絵『はなのすきなうし』岩波書店、1954】



12月1日 本校ブログより

「男らしい」「女らしい」について考える人権の授業を3年生で行いました。イラストを見ながら、「男らしいもの」「女らしいもの」に分ける活動で、子どもたちは、最初は「青色なので男らしい」「リボンがついた帽子は女の子らしい」などの理由を付けてながら分類していました。でも、しだいにその考え方のおかしいことに気付いていきます。そして、「男の子らしい」「女の子らしい」ではなく、その人の好きなこと、好きな物で決めることが大切だということを学びました。

授業の中で、「お母さんが『スカートは男の人も着るよ。』と言っていた。」「お父さんも料理の手伝いをしている。」という子どもの発言がありました。ご家庭での言葉や振る舞いが、いい人権教育になっているんだなと感じました。

「男の子なんだから…」「女の子なんだから…」とふと口にしそうになりますが、子どもも大人も「その人らしさ」を大切にしていくようにしていきたいと思います。

この動画の終盤、クロウジーさんが語りかけてきます。

「『男の子らしい』とは？『女の子らしい』とは？『自分らしい』こととどっちが大切なんじゃろうか。」子どもたちも含め、いや、子どもたちよりも私たち大人こそが、この問い合わせを受け止めなければならぬのかもしれません。

私が小学生の頃、ピアノのレッスンがあるからと遊びを抜けると、「女の子みたいや」と友達からからかわれました。「男の子なんだから、泣かない！」「女の子らしく、おとなしくしていなさい。」と親も先生もよく口にしていたように記憶しています。

『はなのすきなうし』の出版から70年以上が経ち、「らしさ」とは何か問われ続け、ようやく社会が変わってきたように思います。そして、これからの社会は、今の子どもたちが創っていきます。頼もしい限りです。